

サレス州統領立候補決定か



政界消息聞問の観測に依るところ、サレス州々統領の次期大統領候補に立候補すべき事は殆ど確定的のもので、それがため来月十五日州統領の地位を譲り、急選挙戦州陣の準備を始めます。州長官は、州議院の議員の間で、候補者の内、アルメダ・オーリオ、デ・アルメダ・オーリオ、カリオカ紙の特派記者に對する如く語つて右の説を否認した。

智的協力協議會は、

智的協力ブラジル委員會は、

智的協力協議會は、



聖報佛壇

タベーラの崩れオナルノや
ンガ熱るゝ
匂やかにカモミラ賣りや夏
きぬ 註 カモミラ—薬草
▲以下普通と思ふ句
瑠璃の實のふくらみや夏近
不 迷 子 星

只今の處、文藝部の手元
五六十通からの歌人の投稿
あります。此の手は紙面の余儀な
いで、一回お休みを余儀な
れました。熱心に精進期
し居る皆様に何とも申譯
紙面独陥で文藝部は悲鳴
げて居ります。

三十ミル也 祖母井機(全額)
十五ミル宛 菅原慶四郎 松
十ミル宛 高田利平 田口承
吉岡崎端全額拂込済
五ミル也 田中忠四郎(全額)
拂込済
三ミル也 隠塚庄蔵(全額)

拂込	拂込
三十ミル也	作野常七
二十ニミル也	古賀順藏
伊六	加藤
十ミル宛	利光逸治
井上幸三(全般拂込)	雪金六
二十全般拂込ボンボ植民地	酒井
二十三ミル宛	久保善夫
廣士	上原
花木順一	郎部
内田正夫	林田

（全額）	（全額）
（ル宛	原口惠一
外間良吉	比嘉大
玉名罰正則	左司平
酒井	达磨
安田仁（全額押込	
山平吉	
小松政雄	
齋藤孫三郎	
平野甚	
山本吾一	
松尾彌太郎	
金成久（ミシマル	
ル宛	
明石清吉	仙米高
清水富三郎	井重次
釜崎佐三郎	水岩
海	
小松政雄	
齋藤孫三郎	
平野甚	
山本吾一	
松尾彌太郎	

二十日也。拂込也。
平山慶三郎（全額拂
喜、全額拂）
野崎（三十ミル宛）
丸宛妹尾信次（全額拂
十ニル宛）

月田京藏	一門
篠原只喜	鹿江常
中尾平作	全額拂
【合併】	本幸作 河野一郎
二昭和村	奥村平作 斎田寺田
阿久津助太郎	鳥越邦安 岩井良太郎
中田一正	四十川也
里清音	徳拂認
翁	宍山一兎

昭和拾貳年 堂吉作
堂吉作 慶照親 照堂吉作
佐々木作 天作 本家象
平五郎 五郎作 道作
大崎藤次郎 佐々木作
「參觀禮説」
尾定五郎 「全
水桶三郎 宮
岩本三六

年 度
延 期 二 關 スル 告 示
（徵集延期關係者ハ左記事項心得ハシテ
一月迄ニ在帝國外徵集延期願乞
請出スヘシ）
（ル届出義務ヲ怠リタル場合ハ徵兵令
軍事罰セラルニ付特ニ注意ス）

节文王

タベーラの崩れフオルノや
珈琲の實のふくらみ夏近し
金星
珈琲の實のふくらみ夏近し
不迷子
餘草鐵床几がはりやマンガ下
シガ熱るゝ
匂やかにカモミラ賣りや夏め
きぬ 註 カモミラ藥草
▲以下普通と思ふ句
アーフ 貞太郎
夏めける陽と乾掛けの夜衣
椅子など運びマンガよばれ
垂れ枝のマンガ取居仔豚哉
後藤 純江
マンガからバスト止切るや角
アラメ 評もう少し工夫を要すト
思ふ 赤木一平
土産なるマンガの色。青から!
合歎さして痴邦國夏のわい
評 珈琲國の夏めきを詠ん
だのに風のと二つ切ト
で一寸心細つかつて
モヂ「ハ・ハ生」
波 夏めければサンツスの海とショ
二二三、咲きて夏めくバタク島
評 馬鈴薯の白い花と思ふ
腹みちてやに臭く。マンガ哉
芭蕉葉に夏めく朝の微風かた
のあり 児指枝マンガの一つ大き
アーフ 評「サンツスとショツツ
の話や夏めぬ」では如何
アーフ 戯立チマンガを盜む新移
人哉 太郎
夏めける野の家に逝ける青年
の雨 鉢木 埋春
街路樹にマンガ植え都の町
トヲツクを止めてマンガを土
さりけり
素 骨
銀狐柄にまばら夏めきて
箱うねのマンガ味なくしやぶ
りけり
チモロ。黄なくよごてマンガを土
の鳥
タベーラは荒廃し、耕地
並木道研究の笛や夏めきね
タベーラにマンガも居たり
の鳥
小さなる郷子の房賣。夏めきね
大回文題(新年号發表)
西瓜。夏季戰試。
除草して七句
▲締切り十二月十五日▼

年度 延期二關スル告示
微集延期願
〔大正十二年二月一日迄ハ在帝國外徵集延期願及
其出スヘシ
〔書式參照〕

昭和二年九月一日 演火事 小説家 一二三編 曹八 著者 二三編ノ治中 二六近 市文士